

令和8年度 第1回 高砂市総合政策審議会 全体会

議事録

開催日時	令和8年5月29日（金）14：00～16：00					
開催場所	高砂市役所南庁舎5階 大会議室					
会長	田端 和彦 会長					
副会長	浦山 剛史 副会長					
委員 （名簿順、 敬称略） 出席者	欠席	中尾 進	出席	阿部 伊三男	出席	松井 藍
	出席	石堂 求	出席	前田 弘子	出席	澤田 勝仁
	出席	寺延 順市	出席	山里 護	出席	浜田 耕資
	出席	濱中 美佐子	出席	竹内 茂雄	出席	中井 八重美
	出席	眞榮 和紘	出席	西牟田 和子	欠席	松田 勝巳
	欠席	東野 アドリアナ	出席	稲垣 稔	欠席	大西 正起
	欠席	後藤 純次	出席	大森 裕	欠席	新井 誠三
	出席	前田 大介	出席	飯塚 一哉	出席	逸見 信也
	出席	藤田 光人	出席	大竹 良次	出席	山田 隆広
	出席 （代理）	近都 学				
議事	協議事項 （１）第5次高砂市総合計画令和7年度・8年度実施計画について （２）地域再生計画に係る効果検証について （３）その他					
資 料	事前配付資料 ・ 次第 ・ 高砂市総合政策審議会委員名簿 ・ 第5次高砂市総合計画【後期基本計画】 ・ 他の地域との人口移動の状況 ・ 第5次高砂市総合計画実施計画（行政経営プラン）令和7年度・令和8年度 当日配布資料 ・ 令和7年度 地域再生計画に係る効果検証 ・ 令和8年度 高砂市市民満足度調査票					
議事の経過						
開 会 ＜資料の確認＞ ＜進行について説明＞ ＜出席者・事務局紹介＞						

<会議の成立>

<市長挨拶>

委員の皆様方におかれましては、2年間にわたり、第5次高砂市総合計画後期基本計画の策定にご尽力をいただきこと、改めて深く感謝を申し上げます。

さて本計画は今年度からスタートをした。

これまでご審議いただいた通り、少子高齢化による人口減少という、避けては通れない課題を受けとめながら市民の皆様が幸せに住み続けられることのできるまちを目指すことを重視し、新たな幸福度の向上を計画の大きな柱と位置付けている。

今後も市民一人一人が高砂市に暮らし続けてよかったと、心から実感できるまちづくりを全力で推進して参る。

また、答申でいただいた協働という言葉も大事なキーワードとなっている。

本審議会はまさに本市が目指す協働の一つの形であり、産業、金融労働の言論など、多種多様な分野の最前線でご活躍の方、そして地域活動を支える皆様と行政がそれぞれの役割で、ともに考え、ともに取り組んでいただく場となっている。

本日もそれぞれの立場から、高砂市の2030年の将来像である「暮らしイキイキ未来ワクワク笑顔と思いやり育むまち高砂」に向けて、忌憚のないご意見をいただきたい。

<会長挨拶>

先ほど市長の挨拶でもあったように、この総合政策審議会の場というのは、市民との協働の一つの場であると位置付けている。委員の皆様からは、ぜひともご意見を出していただき行政と市民とが一緒になってこの高砂を盛り上げていくという体制をとっていきたい。

この総合政策審議会は、大きな委員会で様々な役割を果たす必要がある。そのために、委員の皆様には、いろいろとお願いをすることがあるが、ぜひとも、快くお聞きいただきたい。

人口統計なども発表されており、高砂市においてもなかなか厳しい状況にあるということは、ご承知の通りである。東播磨全体が厳しい状況にあるが、そういった中で、この新たな総合計画を作成し、いわゆるウェルビーイングという考え方で市民一人ひとりが幸福に過ごしていけるのかというのも大事な課題となっている。そんな観点からも、ぜひとも、忌憚ないご意見を賜りたい。

協議事項 1

第5次高砂市総合計画令和7年度・8年度実施計画について

(事務局)

「令和7年度の政策評価表」と、「他の地域との人口移動の状況」の資料を説明

(会長)

令和7年度実施してきたことに関して、ご意見や課題について、ご意見を伺いたい。また、個別事項についてもご質問があれば伺いたい。

(委員)

福祉総合相談センターの中に「誰でも立ち寄りステーション」を設置し、ということであるが、設置はいいが、場所的に高砂市内から集まってこられるところというか、いわゆる交通の便が悪いところになるため、バスが走っていない場所になっている。

この場所に行くには必ずしも車や自転車を使うことになるので、もう少し高砂市内の誰でも集まれる場所に設置できるような運びはできなかったか。

(会長)

設置そのものについての反対ではなく、いわばそこは公共交通の便が余りにも良くない場所ではないか。例えば場所の選定にあたってどういうふうなプロセスがあった。或いは、ここに置いた以上は交通をどうするのかなどの対応策も含めての質問である。

(政策部次長)

障がい者や高齢者等の、誰でも立ち寄れるっていう観点で設置をしている。

ただご指摘いただいたように交通の便というのは、誰でも立ち寄りステーションの部分だけではなくて、市内全域の中でいわゆる買い物の部分でも交通の便というところに関しては、様々なご意見をいただいている。

この場でご意見をいただいたという形で、福祉部の方、それから市全体の中で参考にさせていただきたい。

(委員)

20代の若者層が、利便性の高い都市へと継続して流出しているところが、人口が転出超過となっている原因だと書いてあるが、転出している原因はこれだけなのか。

(政策部次長)

若者、20代の方がいわゆる就職というような形で、転出が原因という一般的な形での分析をしている。

ただ、転出される方にアンケートを実際にとった上での結果という形ではない。ちょっと古い全国的な統計アンケートの結果を我々も分析し参考にはしているが、やはり若者の転出する、原因としてはやはり、就職、それから結婚が理由で転出をされる場合が多い。高砂市でも、若者の転出超過が多いというのは基本的には同じような考え方であると思う。

そのターニングポイントで、高砂市が、現状若者には選ばれてないというようなところが、数

字としてあらわれているので、そこで選ばれるような、高砂市にしていく、魅力のある高砂市にしていくことが、目標になっている。

(委員)

障がい者の立場として、いわゆる電光掲示板は、もちろんそれはいいが、障がい者が求めているのは、いわゆる誰もが安全安心にスポーツを楽しむ或いは観戦できるということである。例えば、障がい者が入るトイレの構築。これは非常に大事である。それから障がい者の車椅子の方が、通れるような道の構築を、市長懇談会の席で発信はしている。

この評価の内容について、もう一つ納得がいかない。

(会長)

質問は二つある。

一つは評価として、この電光化というのは評価するが、誰もが安全安心と繋がるのかという質問と、もう1点が、障がい者やスポーツ障がい者のためのいわゆる施設整備や障がい者スポーツを楽しむための施設整備はどうなるかという点についてご回答いただきたい。

(政策部次長)

令和7年度の政策評価表について、高砂市においての7年度の取組すべてをここに書かれているわけではない。

そういった中で、主に、「快適で住みよい住環境」、「健康で元気に暮らせるまちづくり」、「安心して子育てができるまちづくり」というような3つに分けて取り組んだ中で、特に皆さんにお伝えして見ていただきたいというような形でピックアップをして、評価している。

熱中症対策という部分の中で、野球場のスコアボードの電光化に取り組んできたところである。そういった取組を実施してきたので、安全安心にスポーツを楽しむ施設整備を進めたというような結びにしている。

まだまだ野球場に関しても未整備の部分もあるし、その他の公共施設等においても未整備の部分はあるというふうに認識しているので、当然市の方も把握して、もちろんすべて一足飛びにすべてを解決できるのかっていうとやはり公共施設の整備っていうのには時間がかかる。少しお時間をいただかないといけない部分がある考え方になるので、その中で、できるところ、優先度、優先順位をつけた上での整備の方を進めていくというような考え方でまとめている。

(委員)

まず1点。小学校の体育館、空調設備がついたということは非常にいいことであった。

体育館の前に先陣を切って普通教室についたので夏場冬場の時期も、ある程度快適な環境で小中学生が教育を受け入れる環境が整ったのは非常にいいことであるし、夏場の暑い中の体育館で体育、もしくは集会ができるということは非常にいいことであるので、重点取組としても評価できるところである。ただ1点残っているところが、特別教室である。

学校側からも、保護者側からも出たのが、大体6月になると特別教室は使えない状態である。

もう1つが、図書室にも空調設備がない学校がほとんどという形になっているので、どうしても夏場に関しては、図書室の利用率を下げざるをえないという状況になっているので、学校環境、特に子育てできるまちづくりを目指すということであれば、早急に特別教室等の空調設備を整備していくということが必要になってくる。それと合わせて今の学校がすべて、40年以上経って

いるところがほとんどである。

これから新たな学校を作る整備のウェイトに合わせて検討しながら、学校の環境整備を進めていかないといけない。

もう1点。

他地域との人口動態状況というところであるが、年齢階層別の人口度移動の状況が、10歳ごとの区分けに書かれているが、今のこの状況からいくと、最後の60歳以上でまとめているのか疑問に残っている。

20代も大事であるし、30代もライフサイクルの中で戻ってくるということもあるが、もう1つのイベントとして、介護というところで、高砂市にこられる方が70代後半から、転入が多くなってくると、どういうことなのかなっていうところも考えながら、人口動態を見ていく必要があるのではないかなと思う。今後その辺のところも状況として資料としてお示しいただければありがたい。

(会長)

前半部分につきましては、ご意見ということで、いわゆる今後の整備にあたっての留意点。2点目について60才以上にひとまとめになっているが、例えばもう少し細かい情報があれば、ご提示いただきたい。

(企画課長)

お示ししている資料については、総務省のデータをもとに作成している。委員ご指摘のとおり介護という観点も非常に重要であると考えられるので、データがあれば資料としてのお示しを検討していきたい。

(委員)

高砂市の高齢化率が、30.4%になっていたと思う。各町別の人口割合も出ていたので8地区を見る限り、今まで高砂町と北浜町だけが30%を超えていたが、30%を超えていない地区はたった1地区だけである。

60代後半の方が80代後半の親御さんを引き取って介護するというようなことも当然出てくるわけなので、その辺のところは、重点的に調べていく必要はあるかなと思い意見をさせていただいた。

(委員)

#7119の周知といったところで、市としてどういうふうな周知を、いつ、どういう形でされたのかというところを教えてください。実際に効果としては、救急車の要請率が、2%目標が4.2%ということで2ポイントも増えているということはとてもいいことである。また、令和8年度は5%目標といったところは、一定評価できるところである。

2つ目の質問としては、この審議会で自動音声等はどうなのかといった意見が出ていたかと思うが、受託事業者の仕組みの問題かなと思うが、委託している県に対してその意見・要望みたいなところは、上げられたのか教えてください。

あとは、高砂市からのこの#7119の利用数、相談内訳は事業者が取りまとめているので情報があれば教えてください。

また、この導入効果の調査分析みたいなところは、この救急車の要請件数以外にも何か考えているのかどうか、お聞きしたい。

(政策部次長)

#7119の取組の中で政策部において、すべての情報発信等を把握しきれてないところである。

先ほどのご質問に明確にお答えすることができないため、また日を改めてというか次回のタイミングでお伝えができるような形をとりたい。本日出たご意見については、消防の方や庁内で共有するというような形をとらせていただきたい。

(委員)

高規格救急車っていうのはどういう救急車なのかということと、高砂市またその周辺に、どのように何台ぐらい配置されているのかなっていうのがちょっと疑問に思っちゃってちょっと教えていただきたい。

(委員)

救急車の中で医療行為が行えるものを高規格救急車と呼んでいる。

(委員)

人口構成を見たら、65歳以上が人口構成の中で非常に多い年代層になっている。高齢者にやさしいというか、人口の割合が多い高齢者に占める施策が、この評価には上がってないのか。

(政策部次長)

高齢者の施策がというご質問に対して、細かい部分でいうと政策評価の中で、実際には高齢者施策も当然ある。

福祉政策の中や、その他でも実施しているが、それを一つ一つ審議いただくとなると本日時間では当然おさまり切らないので、本日に関しては、7年度の総括という形で、全体的な中で、特に見ていただきたい取り組めた成果があらわれたところを総括の方にまとめているので、ご意見をいただければというふうな考え方で、本日進めさせていただいている。

(事務局)

「令和8年度の政策評価表」の資料を説明

(副会長)

幸福度や市民満足度を高めるというところで、満足度調査の結果を、各事業の指標のKPIと関連付けてみるというのもありなのではないか。

(会長)

中間評価の時に、いわゆる政策ロジックをどう考えるかというところで、市民の満足度を高めるために向かってどうしていくのか。そのためにいろんな整理をしていく。その結果として、KPIとして出てくるといった、ある種政策ロジックをしっかりと見える化するための関係を中間評価のときは、ご配慮いただきたい。

(委員)

地域との繋がり、デジタル地域ポイント等に重点を置かれているが、旬の話として、高砂市ではギフトカードを各世帯、全市民に配布する事業を実施しているということで、すごく期待して

いる。4月の上旬ぐらいに、順次配布していくということで、聞いているが、子育て世代はまだ届いていない。

いつ届くのかという期待感も増すが、ある程度の期間を過ぎてくるとまだかというふうになっている。子育て世代は修学旅行や自然学校が迫ってきているので、そちらに使いたいという声もよく聞こえてきているし、本当に届くのかという疑問がわいてきている。

実施していただく内容は評価できるが、中間評価にも響いてくるので、郵送などもっと迅速にできる手段はないのかというのをお聞きしたい。

(事務局)

今現状として、ギフトカードについては、委託業者から郵便局の方にすべて渡っている状況となっている。簡易書留での発送という形になっているため、手渡しでの配布、また、不在対応もあり、当初の予定よりも少し発送の方が後ろの方にずれ込んでいる状況である。

委託事業者を確認させていただいたところ6月中旬ごろの完了を目指して進めている。

(企画課長)

確実に安全にお届けするということを重視した結果、その中でも一番早くお渡しできる方法を選択している。

(委員)

こども食堂の数について、今の時点で目標が達成してしまっている状態である。目標を挙げたほうがいいのかわからないが、とりあえず現状を報告する。

(会長)

事業の指標を変えるというのは難しいので目標の17が達成されているのであれば、プラスが増えていけば評価が高くなるということである。

(委員)

赤ちゃん先生プロジェクトについて、いわゆる赤ちゃん先生自体は10年以上前から実施している事業であると思うが、「この体験を通して命の繋がりや大切さについて考えましたかの質問で、肯定的な回答の割合」が実施計画の指標に入ってきているが、この取組をどのようにされるのか、市内の、例えば小中学生を対象にされるのであればどの学年に実施するのか、小学校では実施するとか、その偏りがあるのかというふうに、試験的にやってみるのかとか、どういうふうな取組で進められるのかというのをちょっと教えていただきたい。

(会長)

実施しているのは全国的な組織で、10年以上前から実施している事業である。赤ちゃんをお持ちのお母様が中心であるが、学校等に行き、ママさんと一緒に赤ちゃんは、生徒・児童の皆さんと、話しながら命の大切さを考える事業であったと記憶している。

この具体的な運用の方法についてお願いします。

(政策部次長)

赤ちゃん先生プロジェクトはNPOの方で実施されておりご説明があったように、過去から実施されているものである。

後期基本計画を進めるにあたって、自己効力感の部分で、市内全中学3年生に実施するという事で予算計上したので、令和8年度の実施計画に掲載し、評価していくということである。

(委員)

昔は、ママの働き方を終えたいお母さんが子供を連れてでも働けるようにという取組から始まっているはずである。

どうやって働くかということ子供を連れていき、赤ちゃんをだっこしてもらったり、命に触れてもらって、実際のその重み、命の重みだったり自分たちがどうやって育ってきたかっていうのを見てもらって何かを感じ取ってもらうっていう取組だったと思う。

実際、赤ちゃんを連れていくということなので、安全性の部分っていうのも懸念される場所もあると思うので、中学3年生であれば大丈夫かなと思うが、そこら辺の取り扱いも気をつけていけないといけないのかなと思う。

(会長)

本来的にはもうちょっと上の高校生ぐらいを対象にしているケースが多かった。そういう意味で、中学生で大丈夫かという課題が出たということは担当の方にお伝えいただきたい。安全をしっかりと確保して欲しいということ、それから派遣される方については、しっかりと訓練を受けた方が派遣されるようなことを確認して欲しい。

(委員)

今年度の取組の中で、デジタル地域ポイントがある。弊社も協力している。現在の利用率、協賛企業が今後増えていくのかどうかっていうところをちょっとお伺いしたい。あと自治会振アプリの導入ということで補助されている。自治会支援アプリの補助率を教えてください。

(政策部次長)

現状、5月末ということで、参加率や、影響というのはまだ分析できてない状況である。3月から事前登録をスタートさせ、登録者数の方をまず募集させていただいている。そういった中で、担当からすると、かなり多くの方に参加をいただいているというようなところで、感触としては、いいスタートを切っている。

それから、自治会支援アプリの補助についてであるが、今年度、地域との繋がりということで、自治会に対して支援を実施していく形になる。

こちらについても、成果というところについては、現状把握できてないというお答えになる。

(委員)

地域包括ケア病棟の月平均入院数をKPIに設定しているが、こういった背景から設定したのか。この地域包括ケア病棟の月平均入院日数が増えることによって、望ましい方向は増えることだと思うが、期待効果とアウトカムはどういったところを狙っているのか。

(政策部次長)

在宅復帰に向けた支援の指標、そういった形として地域包括ケア病棟の月平均入院数を、後期基本計画の方から追加させていただいている。

(委員)

地域包括ケア病棟に入院される方が増えれば増えるほど、在宅ケア復帰の介入数が増えた、在宅に戻っていく方が増える、といった改善に向かうという期待があって、これを置いたということではないか。

(会長)

考え方はその通りである。いわゆる望ましい方向は何かということを想定してこのK P Iを設定しているはずであるが回答をお願いする。

(政策部次長)

K P Iの設定に関しては、望ましい方向は上昇、数値が上がるという形を目指して、設定している。数値が伸びることによって、家でその後の介護を受けながら生活ができるといった方向に繋げていくということを目指している。

(会長)

望ましい方向性に持っていくために、それぞれ企画政策を行っていくが、いわゆるロジックとか繋がりがなかなか見えてこない場合がある。

行政の方ではわかっているが、市民の中には、どうしてここの数字を使うのっていうのがあったりする。

そういった意味でこの部分どうしてということがあればご意見やご質問をいただきたい。

(委員)

部活動の地域展開というところで、2つの地域展開の本格施行が多分来年頭だったと思う。

今の部活動ですら、人数が集まらないので部活動が形成できませんっていうところもあるし、本来集まって部活動を形成したいところが、6つ中学校があって引き受け先が1個しかない。そこへ6校の中学校が集まってきて本当にそれが成立するのか。

そこに人は集まったが、1人2人、3人しかいませんっていうような現実も出てくるかと思うので、とりあえず登録団体として手を挙げているところを、どういうふうな選別して選択してやっていくのか。

今から入学する6年生は説明聞いても多分、どうなるなっていうのがわかりかねるところがあると思うので、その辺は市民感覚としてもどうなのか。当然これを評価していくところで、部活の地域展開で実証研究実施した部活動が今7で来年度は10というふうになっているが、これをどういうふうな形で評価していくのかそこをまずちゃんと整理ないことには、評価しにくいと考えるのでご意見をした。

もう1点。市民が一番今関心あるのが、高砂市民病院のところになってくる。

公設民営型で指定管理方式っていうのが決まっているので、それで進めていく。

それがちょっと前倒しで決まったことは一ついいことであると思うが、実際のところそうしたら、あとは公設民営型でどのような医療法人が手を挙げてどれだけの数が上がってくるのかというところと、どういう形で受託するのかっていうところは市民として気になるところではある。その辺のところは、基本構想、計画立てるということにはなっているので、まず、大きな広い目で見るのと、将来的には高砂市の現状を踏まえて、どういう形で、高砂市民病院のあり方というのは計画位置付けられるのかということ、他の周りの市の公設病院、もしくは大きな総合病院との体制をどういうふうな形で、基本構想に盛り込んでいくのかっていうところは、慎重にはあるが、早く市民の方が目に触れる形で、計画等々を組んでいただきたいということで意見をします。

(会長)

1点目がいわゆる部活の地域展開において、児童生徒のニーズと提供団体とのミスマッチの問題。提供団体がどう対応されるのかということ。2点目は高砂市民病院という大事なところであるが、実施計画では、建て替えの推進というところで、指定管理制度運営のことについては、どうなの

かと、この総合計画の中で計画を組んでいくのかということもお答えいただきたい。

(政策部次長)

部活動地域展開に関して直接的な関与はしていないので、正直いただいたご意見に対して、お答えができない。

ただ1点、評価として、この指標とかが見えにくいという意見については、研究していく必要があると思っているので、今後検討させていただきたい。

市民病院については、計画の方には建て替えの推進とか基本構想とかありますけどもこれ評価するにあたって、中間評価の際には、ある程度決まっているので評価していただきたい。

(会長)

別途、委員会が立ち上がっているので、進捗管理等々はその委員会でされていく。そこでの評価も当然出てくるかと思うので、総合政策審議会でも、評価を反映していただければ。

協議事項 2

地域再生計画に係る効果検証について

(事務局)

「令和7年度 地域再生計画に係る効果検証」の資料について説明

(会長)

企業版ふるさと納税という形で企業の方から高砂市の取組に対してご賛同いただき寄附をいただき、そういった事業に対してこの評価をしていかないといけないので、こちらの総合政策審議会の方でご意見をいただきたい。

(委員)

ふるさと納税の実績というところが評価に上がっているのが悩ましいところである。どのような効果を、ふるさと納税の実績で上げられたのか。

(事務局)

ふるさと納税の推進や移住定住関連のガイドブックの見直し等の取組を実施した結果、目標の達成に寄与したと行政評価している。

(会長)

ふるさと納税の実績については課題があるのではないかという意見であるのでまた別の機会に議論したいと思う。

(副会長)

企業版ふるさと納税も人材派遣型企業から人材を派遣してもらって、その人の人件費を寄附するというシステムがある。

例えば、金融教育に派遣してもらおうとか、広報であるとか、空き家の対策専門家を、寄附してもらおう等の形のもう少し様々な項目を立てて、募集した方が増えるのでは。

個々の事業評価の効果についても、計りやすいというメリットもあるのでないか。

(政策部次長)

ご意見いただいた通り、実際に企業様からの企業版ふるさと納税で寄附したいがどのような事業をしているのかとお問い合わせもいただいている。

(会長)

要するにそのあたりが今後の改善点ということで、評価の中に加えさせていただいて今後、企業版ふるさと納税を拡充するためにより、この政策の評価、要するに成果と事業と寄附が結びつくような、寄附の募集の仕方をやった方がいいという意見を付け加える形で事務局と調整することによってよろしいか。

(委員一同)

異議なし

協議事項 3

その他

(事務局)

ワーキンググループを8月に開催することと、次回の審議会は10月の開催を予定している。
正式な通知は後日させていただくが、ご出席をお願いする。